

第3回交流研究会 会議録

日時：平成18年12月15日（金） 13時30分～15時30分

会場：愛知大学三遠南信地域連携センター

出席者：三遠南信地域連携センター

STいとう

とよがわ流域大学の会

三遠南信アミ



三遠南信地域連携センターの「地域づくり情報システム整備事業」について

(1) 全体の事業内容と取り組み状況について

資料；三遠南信地域情報センターの「地域づくり情報システム整備事業」
研究ノート「三遠南信地域における社会・人口統計指標からみた地域変容（平川雄一）」

- ・本事業の目標は、「地域づくりデータベース」を活用することにより、地域づくり活動への住民参加を促進することを目標とし、具体的に4つの目的をかかげている。

GISデータベース基盤システム構築

産官学民と連携した地域づくり情報コンテンツの開発

データベースとGISに関する研究と開発

GIS教育を通じた地域づくりを担う人材の育成

（学生だけでなく、地域住民も対象としている。）

- ・全体の事業期間は、2,005年～2,009年。2,005年度は、先進事例の調査研究と三遠南信地域に関わるGISコンテンツ開発のあり方と基幹システムの基本設計を行った。2,006年度は、基幹システムの構築に着手。三遠南信地域（県境の山間地域；旧天竜市、新城市、東栄町、下條村）を対象とした検証用GISコンテンツによって構成されたシステムの稼働を目指しており、現在8割～9割まで整った状況。2,007年度は県境の山間地域以外の地域についても整備してゆく方針。2,008年度は、他事業部門（地域づくり評価システム、地域づくりガイドライン等）との連携や現地調査を含めながら多様なコンテンツの作成と、それに合わせた人材育成プログラムも展開する。併せて、SNS（ソーシャルネットワーキングサービス）とGISの連携を重視した参加型システム開発に取り組み、2,009年度は、三遠南信地域における地域づくりコンテンツの体系化とデータベース化を完成させる予定。

SNS（ソーシャルネットワーキングサービス）

人と人とのつながりをインターネット上で促進・サポートする、コミュニティ型の会員制のサービス。

- ・三遠南信地域の「すがた」「かたち」が分かり、広範囲で共有できる地域づくりデータベース；「三遠南信のすがた（仮称）」を構築して、視覚的な理解が可能で分かりやすい情報公開・発信を行う。また、Web GISを利用した「地域学」「地育学」の確立、「GIS教育とGISを活用した住民参加型地域づくりシステムの構築と実践」及び、「社会・経済統計データマップ」、愛知大学研究所や当センター等の三遠南信地域に関連した研究・調査結果の公開等をセンターが中心となり取り組んでゆく。
- ・地域づくり情報コンテンツ（歴史、文化、自然、景観、食べ物、生き物、観光、店舗など）の情報収集は、産官学民と連携して取り組む。

パワーポイントによるシステムの説明

人口増減マップ、高齢化マップなど年代ごとに重ねて比較

(2) Web GIS コンテンツ開発について

資料；Web GIS コンテンツ（主題図）開発に関する調査 報告書抜粋編

- ・簡易型Web GISの機能は、次の二つを装備した。
 - 不特定多数の利用者が地図を媒体として地域情報を閲覧すること。
 - 三遠南信地域連携センター及び自治体、市民グループなどの団体が、地域情報と地図とを関連付けて登録・公開すること。
- 簡易型Web GIS
- 個人や仲間が地図上で情報を相互に交換することができるので、身近な利用が可能。施設情報、市民活動情報、観光情報など。
- ・実験的に公開するため、三遠南信地域の自治体及びNPO（NPO法人三遠南信アミなど）が収集した地域情報を主題図データとして登録した。

URL (<http://ft01.kanal.co.jp/aichiuniv/index.html>) で閲覧できる。

現在、閲覧できない状況なので、本会議録には先進事例を掲載。

NPO法人鎌倉シチズンネット（神奈川県鎌倉市）：「e-ざ鎌倉・ITタウン」

- ・行政と協働してIT技術を活用し、市民の情報環境の構築支援や情報関連サービスを提供。
- ・「e-ざ鎌倉・電子Web」の試験公開中。

URL (<http://www.kcn-net.org/gis/>)

(3) 意見交換

- ・Google マップは、都市部を中心に整備されており、山間地域は衛星画像だけで、しかもモノクロ画像が殆ど。

Google マップ

Google社がオンラインで提供するネットだけで利用できる世界各国の地図サービスのこと。道路情報や観光名所など様々な情報が盛り込まれており、表示方法は、「地図」・「航空写真」・「地図+写真」の3通り。

- ・画像は、文章よりも説得力・インパクトがある。
- ・ネット上だけでなくデータを出力して発信し、広く情報の共有化を図ることが必要。

- ・地域づくり情報システム整備に向けての大きな課題は、情報整理を行うサポーターと、経費の確保。
- ・現在、アミでは「第2回三遠南信交流・発見フォーラム in 三河」の意見交換会で出された『おらが自慢の魅力資源』を Google マップに落とし込み、情報提供を呼びかけている。
- ・参加型の情報収集方法として「ブログ」の活用があるが、様々な情報を誰がどのように編集するかが大きな課題である。ブログ活用に向けて講座を開催しており設楽町では様々なメンバーが熱心に取り組んでいる（奥三河ビジョンフォーラムメンバー、観光協会、道の駅運営メンバー、町議会議員など）。ブログは、反応が早い、お金がかからない、口コミの元になるなどのメリットがある。これまでの経験では、施設やイベント情報などの提供であれば誹謗・中傷は殆ど無く、建設的なコメントが多い。
- ・仕事上、お客様等に観光情報等も掲載した手づくりの情報レターを出している。それを参考にして現地を訪問する人がいる。
- ・これらの電子的ネットワークと併せて、サポーター制度など「人が動く」仕組みについても検討してゆきたい。